

家畜保健衛生業務におけるリスクコミュニケーションとナレッジマネジメントの取組

丹後家畜保健衛生所

○島村優理 川島康成

【はじめに】家畜防疫や畜産振興に加え、家畜診療等幅広い業務を担う当所では、職員の半数に民間家畜診療所の勤務経験があり、府職員としての職務内容や経験にもバラツキがあることから、職員が持つ知見や経験を集約し、いかに組織として活かすかが課題であった。そこで、家畜保健衛生業務におけるリスクコミュニケーション（RC）とナレッジマネジメント（KM）に取組み、様々な事象への対応力を積み上げることで組織力向上を企図した。【取組内容】文部科学省が進める「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発された防災対応カードゲーム教材「クロスロード」には、防災関係以外に「食品安全編」、「新型インフルエンザ編」等がある。その著作権を持つチームクロスロードと覚書を交わし、「クロスロード畜産編」の製作と運用を開始し、RC ツールとして活用。

【取組効果】「クロスロード畜産編」による RC は、個別事例検討として家畜保健衛生業務の KM にも通じ、ベテラン職員の経験から対処法や失敗等の情報が共有される一方、若手職員からは全く新しい視点による検討材料が提議された。家畜診療面では難産介助、観血去勢、抗生剤の使い方等、均質でレベルの高い技術の提供に繋がった。【まとめ】「クロスロード畜産編」は生産現場での RC ツールとしても有効で、家畜保健衛生業務の KM も含め、今後リスクプロファイルの内容をより充実させ様々な場面での活用を目指したい。